

星城二代 ～父から息子へ～



(父) 木下 秋次 さん
(星城高等学校第12回生)
(息子) 木下 真 さん
(星城高等学校第37回生)

Q.現在の仕事についてお聞かせ下さい。

(父) 星城中学校、星城高等学校で27年間の教員生活を送ると同時に星城高等学校野球部長も。
(息子) 東レ株式会社名古屋事業部にて、繊維原料、石膏などの製造、また工場全体の排水管理をしています。

Q.息子さんの進路について何かアドバイスされましたか。

(父) 進路については本人に任せました。就職は、私が担任をした数名の卒業生が在籍し、剣道部の実業団がある「東レ」を勧めました。

Q.息子さんにお聞きします。

父親として、そして教員としてのお父様の背中から学んだ事をお聞かせ下さい。

(息子) 卒業生が自宅に挨拶や遊びに来たりするのを見ていますと、父は、信頼され、尊敬されているのだと思いました。私は、幼い頃から「人には優しくしろ」、「人が嫌がる事はするな」と言われていました。その答えがみえた気がします。

Q.星城高等学校の後輩へ一言お願いします。

(父) 現在、私の高校時代から残っている施設は、本グランドと積徳館のみとなりました。少し寂しい気持ちはありますが、素晴らしい施設の充実、情熱があり、熱心で優秀な先生方に恵まれていますので、大いに自信を持って何事にも積極的に活動してほしいと思います。
(息子) 高校3年間で楽しいこともあれば、つらく嫌な事もたくさんあると思います。しかしどんな事でも将来、必ずプラスになりますので、負けずに頑張ってください。
野球部員へ「親父を甲子園へ連れて行って下さい。」

小野田 敏之 さん
(星城大学第1期生/
星城高等学校第37回生)
貝沼建設株式会社
中川支店 不動産管理部



「貝沼社長(現会長)」との出会い。

夏休み前には、数社から内定をいただきました。しかし、自分が何をやりたいかが全くないまま就職活動をしていたために、自分の中で納得がいかに全て断りました。改めて就職部で相談をしていた折、当社を紹介されました。面接時、ビジネスを通して「ひと」と「ひと」との心のやりとりができる会社だと強く感じました。会長の人間性に惹かれ、実際の業務を見てみたくなり、アルバイトをさせていただきました。

まずは運転手、それからずっと会長の側で自分なりに勉強を重ねながら業務を覚えていきました。入社後、私だけが本社配属で更に1年間会長のもとで業務を遂行させていただいた事は、今でも自分の誇りと励みになっています。

やりがいを感じる事は。

入社1年目の時、空き工場を見かけて調査を行い、飛び込みで営業を行いました。そこで、ご依頼いただき、工事も請負、お客様も紹介させていただくことができました。空き物件の有効活用をご提案して、両立の立場で双方のお客様に喜んでいただけたのが一番の喜びです。

つらかった事は。

新規開拓は非常につらかったです。営業は浮き沈みがありますので、沈んだ時にどうやって自分自身を持ち上げていくかです。

後輩へ一言お願いします。

「ひと」とのつながりがある、「ひと」のためになる仕事をしたいと思い、結果当社と出会いました。自分が魅力を感じたところに対して、追求した就職活動を続けていくと表面的なことだけではなく、中身が見えてきます。何事もあきらめずに頑張ってください。

奮闘中!理学療法士1年生 星城大学リハビリテーション学院 I 部第1期生

藤内 隆 さん
(星城高等学校第31回生)



星城高校で学んだことが、
僕のベースになっています。

先を見据えて、何事にも打ち込むことを学びました。高校3年間は、レスリングに打ち込み、インターハイ出場。そして専門学校の3年間は、理学療法士になるためにひたすら勉強を

がんばりました。高校在学中はいろんな事が厳しいと感じるかもしれませんが、社会人となって、挨拶ひとつとっても人間としての基本的な教養を徹底的に学べる学校だったと確信しました。

理学療法士になるまで。

30年間で一番つらかったのが専門学校での3年間でした。人生で一番勉強しました。1年生最後の実習でものすごく変わりました。現場に行ってみると、先生方が教えて下さっていた事がわかる。そして現場の先生方を目の当たりにして、心構えとか充実感とか、わずかに1週間のことでしたが、本当に貴重な体験でした。

